夕刊
新京日日新聞
定價 一箇月 金八十錢 一箇月 金三十錢 郵稅 一箇月 金十五錢
新京永樂町四丁目一番地
發行所 新京日日新聞社
電話 二二五番 二三〇〇番
發行人 河栗忠十
編輯人 松本男
印刷人 谷啓二郞

滿洲に於ける土地法の研究 (八)
權利の種類及其性質

ニ、租戶にして缺租其の他の不法行爲なき限りは增租奪佃せらるゝことなし、

ホ、所有者の變更は租戶に影響せず

八、典權

一、意義

典權とは土地所有者が相手方より一定せる金錢(典價)の融通を受け、之に對して自已の不動產を相手方に使用收益せしめ(出典)他日之と同額の金錢を給付し其の使用收益を終了せしめ得(回贖)可き法律關係を云ふ

二、典契約

口約のみに依る典契約は行はれず、契約證書の作製を必要とす

三、典の期限(典限)

法律的性質に就き說明を要す典主の利益の爲め其の期限內は典物の使用收益を爲すを得せしむる爲め原主の回贖を抑止する目的の下に典契約に作したる附款なりと云ふを得べし從て名は典の期限とは云へ典物の使用收益權即ち典權とは直接の關係無く却つて此の權利を終了せしむ可き原主の回贖に關する期限にして簡言せば「回贖の始期」なり、滿洲に於ては輪作施肥の關係上三年の期限を約定する者多し、契約なき時は慣習上少くとも一年は回贖し得ざることとなつてゐる、尚不動產兼併の弊を防ぐため長期に關しては十年の法定期間の定あり(乾隆三十五年、一七七〇年)

四、典の效力

イ、土地の使用收益權

ロ、轉典權

原主に協議するを要せず、轉典主は更に其の土地を他人に出典して金錢の融通を得ることを得

ハ、典物先買權

原主は典物を第三者に出賣し此の賣價額を以て回贖するを得るも、此の場合必ず先ず典主に典物を買取る意思ありやを問ふことを要し、若し典主に買取る意思あらば之に賣與するを要す

五、典の終了

イ、回贖に依り典權の消滅を見る

原主にかゝる權利を與へて居ることは典權をして支那法上獨特の法律關係たらしめた點であり而して回贖權は當事者の合意を以て除去するを得ざるものにして此の點に於て買戾約款付賣買と異る

ロ、典が「法定期間」を經過する時は原主の回贖權の消滅を來し典主は典物の所有權を取得するに至る、然し慣習上古來より「典地千年活」「活產」等の諺もある通り、消滅時效を遵守する者殆んどなし

二、押權(抵押權)

金錢の借入に際し、借主が一定の不動產を指定し他日その金錢を返還す可く又は之に代へて該不動產の占有用益權を貸主に與ふ可きことを約し、且つ借主にして是等の辨濟を爲さざる時は貸主が自ら該不動產の占有用益權者たるを得しめる權利をいふ

二、押の効力及性質

債務者が指定不動產の占有用益權(即典權)の給付を以て元金の給付に代へ債務を免るゝを得べき任意債權の擔保として債務不履行の場合に債權者をして典權を取得し以て元利の辨濟に充つるを得せしむる特殊の擔保混合契約なり

本年度に於るソ聯邦の石油事業
二千四百五十萬噸の產油計畫

本年一月廿四日開催のソ聯邦中央執行委員會第三次總會に於てソ聯邦國家計畫委員會議長クイブイシエフ氏は第二次五ケ年計畫初年度たる本年度の產業計畫に關し廣汎な報告演說を行つたが其中石油工業に關する部分の報告內容を摘記すれば左の如し

石油問題は一九三三年度に於ける國民經濟の重要課題を提供するものである。石油は國家工業化殊に農業機械化の重要要因を爲すものであると共に航空用の燃料資源でもある、又石油は船舶に、動力等に必要である

一九三三年度生產計畫は二千四百五十萬噸アスチフチに對し依然として我等の重點が置かれてゐる、而して本年度に於てアスチフチには約六百に達する油井の操業開始とクルフチフ、スチルリタマク其他に於ける新油田(數萬噸の採油可能)の發展とが計畫せられてゐる、勿論新油田の右產油高は全國民經濟に對して未だ大なる影響を與へるものではないが、然し今後數年間には大いに增產すべき可能が認められる、本年度二千四百五十萬噸の生計畫を遂行するには本年度內に一、一〇四千米突の掘鑿を行ふ必要がある、是は噴油が減少して、殊にクロプライ油田の採掘(千米突以上)油井の數が增加した事情によるものである、此のためスチルリタマク、グルーズナフチ、トヨメ、チフチ等に對する本年度投資額は約二倍の增加となる尚ほ本年度には六分解蒸溜綜合工場の建設に着手し、內年內に四工場を竣工の豫定である

現內閣の企業合同統制策に對する反對聲明 (七)
―大日本生產黨―

住友財閥と大阪商船

然して本運動に參加せるは、大阪商船と金融上重要の關係を有する住友財閥の小倉正恒であるが小倉正恒が本運動に策應せる動機は三菱の其れ程深き因緣は無い、即ち大阪商船の社債確保の爲めと見て差支へ無い、住友財閥が大同電力等の電力社債の償還不能に惱まされて居る事は周知の事實である、從つて其覆轍を復び繰返す事を恐れて、三菱の策應に應じた迄である、三菱の貴族廻りに郵商合同の曉、資金政策が確立さるゝとすれば、住友として反對する理由が無いからである

然るに、此郵商合同に反對したのが、大阪商船の株主である、此反對理由は餘り深い根據が無い樣であるが「第三者たる吾人より言はしむれば郵商合同は國家的見地より金融財閥の不純なる策謀を成就せしむる上より反對すべきが至當であるが、更に大阪商船の株主の立場よりしても反對するのは、當然の事である、其の理由は左の三點にある

一、株主市場其他經濟市場に於ける地位は日本郵船が大阪商船の上位にある故に、郵商合同の場合、合同株の比率に於て大阪商船は不利である

二、然るに財政狀態は日本郵船より大阪商船の方、良好にして日本郵船程、差當つて行詰つて居ら無い

社債償還準備を缺ける點は兩社共同樣である

三、兩社合同の結果は日本郵船の財政は立直るが大阪商船の財政は低下する

上述の如くであるが故に、大阪商船は實質上日本郵船より以下に取扱はれねばならぬ狀態にある點よりして大阪商船株主諸君にとつて郵商合同は決して有利なる話では無いのである

以上は三菱、住友の兩財閥の巨頭連が郵商合同を提唱すると共に、之が實現に狂奔しつゝある理由である

殊に、三菱關係事業中に日本郵船と同樣の狀態にある企業會社の多數を包容しつゝある現狀よりして、今後も引續き郵商合同と同樣の方策に出づるは想像に難く無い譯である

我黨は郵商合同問題の可否を云爲する者で無い、唯、企業會社自體の持つ財政的缺陷を企業合同統制の美名に隱れて國民負擔に轉嫁せんとする其陰謀的術策に對して斷乎反對を表明する譯である

各種法案を一括上程
昨日の貴院本會

(東京二十四日發國通)貴院本會議は午前十時二十五開會され、造幣局工場新營費案貨幣法中改正案など委員會に附託し、六大都市特別市制實施案を上程、柳澤伯の要求により齋藤內務次官は東京都制案は來議會に提案するが他の五都市は未決定だ

柳澤伯は

政府では下院提案には不同意なるか

齋藤次官は「不同意なり」と答へ、委員に附託して質疑に入り、岩城氏は高橋藏相の財政前途樂觀論を急迫し、インフレーションで利益を得てゐるのに對し非常時稅をかけるべきであると論じ次いで事變費に轉じ荒木陸相に滿洲事變費の見込みを訊し、大角海相の補充計畫の說明は簡單すぎる、年度割を示せと岩城氏の獨り舞臺で十一時五十分散會

四平街の建國週年慶祝

(四平街支局發)四平街に於ける滿洲國建國一週年慶祝の件は左記により大々的に開催さるることとなつた

一、三月一日午前九時半、四平街神社に於て市民建國一週年報告祭執行

二、同午前十時小學校庭に於て市民及日滿學生集合

(イ)滿洲國國旗掲揚

(ロ)同建國ノ歌合唱

(ハ)祝辭

(ニ)滿洲國萬歲三唱

三、同午前十時半、旗行列上記參加團体先頭樂隊を以て小學校校庭より中央大街…郵便局、昭平橋……滿洲街第一小學校庭…解散

四、同午後五時劇場に於て祝慶大會、余興、日滿藝妓の演藝

五、裝飾、驛前、郵便局四辻倶樂部前、昭平橋、二分局前の五ヶ所に裝飾し祝意を表す

六、煙花、時々之を擧げ慶祝の意を表す

七、各戶に國旗を掲げ奉祝燈を出す

八、祝電、執政、關東軍司令官、外務大臣陸海軍大臣

尚ほ三月一日午後五時劇場に於ける祝賀大會出席希望者は左記による申込を要すと

一、會費金一圓也(申込の際現金前納會券と引替のこと

一、申込締切二月二十七日午後四時限り

一、申込場所官衙、場所、銀行會社、滿鐵は當該箇所にて町側は各區長にて取纏め名簿と共に上記締切までに相違なく地方事務所庶務係に申出られたし

怪人凱歌 (百五十七)
(舞臺上演映畫化) 須藤鐘一 (畫)瀧秋方

蔦懸 (九)

『さうですか、それならこちらへ入らつしやい。御案內しませう』

と、寺男はすつかり岡野探偵長の言葉を信じたらしく、田代家の墓地へ導いた。

『少しお待ちなさい。今、水を汲んで來ますだから……』と云ひすてゝ彼は驅け出したが、やがてあか桶に水を入れ、しきみの枝を二三本折りそへて、線香とマッチまで用意して來た。

岡野は聊かくすぐつたい思ひをしながら、それでも殊勝げに墓前へ水を注ぎ、線香を供へて合掌するのであつた。

それが濟むのを待つて、寺男は、

『まア、あちらへ行つてお掛けなさいませ、お茶でも差し上げませう。今日は和尚さまも、御內室も檀家へお留守でございますで、與瓣の方は駄目ですがな。御逗留なら又明日にでもお出でなさつたらどうですかな』

『ええ、又明日伺つて、近頃流行の品を少し買つていたゞき度いと思ひます』と、岡野はバツを合せる。

『時で、どうですかな、近頃、東京の景氣は？』

と、寺男も退屈紛らしにお茶を入れて出したり、法事のお供へ物らしいコチ／＼に干からびた菓子を出したりして話しかけるのだつた。

岡野探偵長にとつては、それが勿怪の幸ひであつた。彼はすつかり腰を落ちつけて、

『いや東京の不景氣といつたらお話しになりませんよ。地方の方は景氣が惡いと云つても、ちやんとたべるものはお膝元で出來るのですから安心なものですよ。所が、東京では、困るとなれば、まるで上つたりで、それこそ鼠の一つかみも手に入らないのでございますからな』

『そんなですかなア。此の邊の若い者は、東京と云へばまるで極樂のやうにいつでも面白いものが見られ、うまいものがたべられるやうに考へ、我れも／＼と飛出しますが、それおや、やつぱりさほどでもねえと見えますな』

と、寺男は眼をしよぼ／＼させる。

『聞いて極樂、見て地獄といふのは、この事でせうな。田舍からもどん／＼出て來ますが、大抵は墮落して惡黨の仲間入りをするか、びつくりして生れ故鄕へ逃げかへるかするんですよ。――それでも逃げて歸られる故鄕のあるものはまだ仕合せです。逃げ歸らうにもその所のないものが、東京にはどの位ゐるか判りませんからなア。』

『さうですかねえ、やれ／＼』

寺男は歎息をもらす。

『それにしても、あの田代さんのお孃樣は、大した御出世をなすつたものですなア』と、そろ／＼岡野は本題に話しを進めるのであつた。

『さう／＼あの醫子樣ですか。ほんとにあんな果報者は廣い世界にも滅多にございませんよ。俗に氏なくして玉の輿と申しますが、田代さんは尤もまるで氏のない譯ではありませんけれど、何をいつても高が零落した田舍の百姓でさ。それが、あなた東京の華族さまの、しかも伯爵家の奧方に、二足飛びでおなりでしたんだ、大したもんですよ』

『一たいどういふ緣故で伯爵家へお入りになつたのでせうねえ』

と、岡野はいよ／＼急所に迫る。

『その邊は、わしもよく知らねえが、何でもあのお孃さまが東京の何とかいふ華族さまの家へ、行儀見習ひに行つてゐらした時分、ちやうどあの山路伯爵がその家へおいでになり、ふと見初められたのがお緣の端だつたとか、其の當時、村では專ら評判しましたよ』

『へえ、その行儀見習ひに上つてゐられたといふのは、何方の家でせう？』

『何でも、蜂谷子爵さまとか申しましたなア……』

と、寺男は朧になつた記憶を呼びおこすやうに瞬目した。

聯盟最後の日

四十二票對一で報告書は採擇さる

世界青史に光榮ある此の孤立

我三代表決然退場

（ジユネーヴ廿四日發國通至急報）報告書草案を採擇せんとする歴史的總會は午前十時四十九分開會した、傍聽席は開會前から超滿員の盛況である松岡代表は午前十時四十五分長岡、佐藤兩代表と共に悠々着席、一段落着いた身構へである、間もなくイーマンス議長開會を宣し、開會演説に入り、報告書草案中に規定する交渉委員會、委員の任命を規定する爲め草案に僅かの修正を爲すこととなつたと聲明し

總會の前回の會合以來余は日本代表部の最近の意見書をはじめ數個の通告を日支兩代表から接受した、これ等通告は愼重に檢討されたが、十九ケ國委員會の全代表は日本代表の意見書は報告書の文言を變更する理由を有せざることを言明す

右宣言終つて議長が支那代表顏惠慶氏に發言を許すや、顏惠慶氏起つ

支那代表の演説

余は支那の政策が支持され承認されたことを滿足とするが同時に聯盟の一加盟國に對し、人類文化史上最も放恣なる私利を非難するの裁斷を下さんとしつつあることに祝意を表するものである

余は報告書の全細目に亘つて同意せるものではないが而も我々は當事國として我々の見解を强要すべき立場に居ないものと考へる、既に和協手續きに依る努力が失敗に歸した以上、リツトン報告書は新たな光で讀みなほさなければならないもので、余は報告書草案第二部に於ける紛爭經過の敍述はあくまで正確な歴史的敍述であり、深くこれを滿足とするものだ

と述べ、次いで勸告案に轉じ

余は一九三一年九月十八日事件に關する報告書の判定を滿足をもつて諒承するものであると共に、交渉委員會に米露兩國の協力を歡迎する、支那は報告書を無條件で受諾するものであり、これに賛成投票を行ふ考へだ

と述べて演説を終る、時に十一時十五分拍手するものもなく直ちに[illegible]に移るや各代表は議場を出て談笑する、[illegible]終つて議長は木槌を叩いて松岡代表を指招けば松岡代表立つて別項の演説を行ふ、一言一句力强く右手を振つては四方を睨みつける、松岡代表の演説は四十七分間で午後零時二十分に終る、松岡代表の演説終るや議長は午餐に先立ち發言を通告せるヴエネヅエラ、カナダ、リトアニア三代表の演説を聽き、報告書を票決に附するか、又は一時休憩するかを議場に計り、結局聽くことに決し、ヴエネヅエラ代表ヅメタ氏の演説に入つた、ヅメタ氏は簡單に報告書を支持し五分で演説を終り、次いでカナダ代表リデル氏登壇、これも五分間で

カナダは十九國委員會が全員一致可決した報告書に賛成するものである

と述べ、終つてリトアニア代表サウニウス氏午後一時十分登壇

總會は和協手段が最早や盡きたのだから此の上は必要な手段をとるべく努力すべきだ

と賛成演説を爲し、午後一時二十五分票決に入り、結局四十二對一で採擇さる、右票決にシヤムは棄權、他の十二ケ國は缺席、議長は直ちに報告書が採擇された旨を宣言し、これに對し松岡代表は報告書採擇を遺憾とする宣言を朗讀し、松岡、長岡、佐藤三代表は決然退場す

報告書採決に參加した國

「ジユネーヴ廿四日發國通至急報」報告書採決に參加した國名（反對日本、賛成四十二）は左の如し

アルバニア、アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、カナダ、支那、コロンビア、チエツコ、デンマーク、エストニア、フインランド、フランス、ドイツ、イギリス、ギリシヤ、ガテマラ、ハイチ、ハンガリア、インド、アイルランド、イタリー、ユーゴースラヴイヤ、ラトビア、リスアニア、ルクセンブルグ、メキシコ、オランダ、ニユージランド、ノールウエイ、パナマ、ペルシヤ、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、南阿聯邦、スペイン、スエーデン、スヰス、ウルグアイ、ベネヅエラ

棄權はシヤム一國、缺席國は下記の十二國、アビシニア、ボリビア、チリー、キユーバ、ドミニコ共和國、ホンジユラス、イラーク、リベリア、パラグアイ、ペルー、サルバドル（其他一國）

午後五時再開

（ジユネーヴ二十四日發國通至急報）ジユネーヴ總會は前後三時間六分の後午後一時五十五分閉會した、午後五時再開す

報告書を採擇し

諮問委員會設置を決定

―總會午後の會議―

（ジユネーヴ二十四日發國通至急報）廿四日午後の總會は午後五時十五分開會、日本からは誰も出ず議場ダレ氣味議場は先づ午前に採擇された報告書の實行を期し、左の決議草案を提出した

決議案　總會は規約第三條第三項に基き世界の平和に影響する一切の事項を處理し得べく、從つて日支紛爭の進展を無關心に看做し得ざるを以て報告書結論に合致せる事態を極東に確立することを容易ならしむるため事務總長は本報告書の寫本を九國條約ケロツグ不戰條約調印國たる非聯盟國に通達し、總會は之等諸國が本報告に表示された見解に賛同し、必要な場合は聯盟と行動態度を共にせんことを希望する旨なるを通告するやう指令され居るを以て、總會は情勢の推移を注視し、總會の義務推行を援けるため一の諮問委員會を設置するに決す、委員會は十九ケ國委員會委員とカナダ、オランダ代表より成るべく、更に米露に對し協力を要請するものとす、委員會は適當と思惟する時は何時でも報告を爲し、何時にても總會を召集することを得るものとす

次いで議長が支那顧維均の演説を許せば、顧維均は先づ松岡代表の演説に對する反駁を始めたので、議長は「左樣な演説は許可し難し」と注意し、顧は直ぐ之を中止し、單に熱河の情勢に言及し

余は熱河の形勢が危急に瀕してゐるにつき諸卿の注意を喚起する、且つ余は總會に對し、閉會に先立つて必要な手段を講ずる權限を委員會に與へることを要求する、日本政府は熱河にある支那軍隊に撤退を警告したが、日本は支那軍の撤退の要求する權利が何處にあるか、吾々は全兵力を擧げて防禦に向ふであらう、余は此際侵略を遏ふして止まめ場合に適用する聯盟規約の共同制裁制度に關して注意を促したい

と述べ、五時五十分演説を終り、議長は他に發言なきやを議場に諮り之に答へるものなき爲め議長は討論終結を宣し議長は更に反對意見なければ決議案は採擇されたものと見做すと言明した、かくて總會はこれで日支紛爭事件審議を打切り、次いでナンセン記念避難民國際事務局マツクス、フーベル氏の後任を任命し午後六時二十分（滿洲時間二十五日午前二時二十分）散會した

之で今後は右決議で組織された二十一ケ國諮問委員會に事務を委囑して休會に入つた譯である

報告書反對宣言

（ジユネーヴ二十四日發國通至急報）報告書採擇に續き松岡代表の爲した報告書反對宣言は左の通り

報告書が採擇されたことは日本代表部並に日本政府にとり深く遺憾とするところである日本は聯盟創立以來その一員である、日本は他の聯盟國と共に人類共同の目的達成の爲め努めて來たのである、日本の政策が極東に於ける平和を保障し、全世界を通じて平和の維持に貢獻せんとする希望によつて、根本的に鼓吹されてゐるものであることは衆知の事實だ、しかしながら報告書は受諾することは出來ない蓋し右報告書に包含された勸告が極東平和を確保するものと思惟し得ないものなることを指摘せざるを得ない、日本政府は日支紛爭に關し聯盟と協力せんとする努力が限界に達したことを感ぜざるを得ない、余は日本政府があくまで人類の福祉に貢獻せんとする希望を固持し世界平和に協力を持續すべきを附言す

櫻は散り際が肝腎

松岡代表語る

（ジユネーヴ二十四日發國通至急報）熱辯を振つて議場から出て來た松岡代表は語る

言ふべきことを率直に語つた、自分の好みから言へば「汝等罪なき者は此の石にて打て」とも言ひたかつた然しこれを言つたら問題を起したであらう、櫻は散り際が肝腎だよ

杉村次長辭表提出

（ジユネーヴ廿五日發國通）杉村次長は辭表を提出し廿八日諏訪丸で歸國の途につく筈

正式脱退の方針決定

代表部引揚を訓電

（東京二十五日發國通）勸告案が採擇されたので、本日總理大臣官邸に緊急閣議が開かれ、正式脱退の方針決定し直ちに代表部宛て引揚げ命令訓電することとなつた、それと共に樞府御諮詢の手續をとる爲め、外務省と法制局とは準備を開始するであらう

ロシヤ仕向け漁網輸出

カニ網十一萬反と綿糸注文

昨日ソヴエート通商部が去月三十日以來本邦各方面の漁網輸出商に引合中なる北洋漁業用カニ網十一萬反及び漁網用綿糸（撚糸）五萬キロの注文については邦商側とソ側との條件折合はず商談は一時全く停頓のすがたであつたことは既報したが兩三日前より打開された商談は急速に進み邦商側に對する注文の成約を見る捗びに至つた、此の結果先に注文したロープ、トワイン類と合せ既に百十萬圓内外の漁業用物資がロシヤ向輸出されるが尚ほ今の處期待されてゐる鮮產漁網類の注文指命は未だ通商部に到着してゐない

富士木材公司大塚氏拉致さる

二十三日午後二時頃吉敦線威虎嶺驛貨物ホーム附近に突然三名の匪賊現れ富士木材公司員邦人大塚某滿人張の兩名を附近の山中に拉致去つたが未だ詳細不明である

宮内次官後任は大谷内藏頭に決定

（東京廿四日發國通）關屋宮内次官の後任は宮内省内藏頭大谷正男氏に決定二十五日正式任命の筈

松岡代表はけふ壽府引揚げ

（ジユネーヴ廿五日發國通）松岡全權は二十九日午後二時半ジユネーヴ發パリーに引き揚げと決定、長岡代表は九時四十五分パリーに引き揚げ、佐藤代は二十八日ブラツセルに引揚げと決定した

廿四日總會に於ける松岡氏の大演説

（ジユネーヴ二十四日發國通）二十四日の總會で報告書草案の票決に先立ち我松岡代表が爲したる大演説大要左の如し

一、日本代表部は總會に對し報告書案に同意する能はず之を受諾し得ないことを通告せざるを得ない

二、報告書草案全體を通じての顯著な特色の一つは十九ケ國委員會が極東に於ける現實の事態且つ驚愕すべき事態の中に置かれた日本の立場の困難並に日本の行動を餘儀なくせしめつつある窮極の目的を理解してゐない點である

三、過去二十年間以上に亘り支那は一つの革命時代を經過し、數千萬の人民がその生命を失ひ、數億の人民は慘苦と絶望との内に投ぜられた

四、極東に於ける紛亂の根本的原因は支那の無秩序狀態である

五、滿洲國が支那の完全な主權の下にあつたといふのは現實且つ歴史的の事實を枉げるものである、今や滿洲は支那を離れ獨立の國家となつた

六、支那は廣大な國であるがそれは決して西洋國民が用ふる言葉の意味での「國民」若くは「國家」ではない、曾て支那は未開國であつた、不統一と災厄の驚くべき狀態にある國である、支那はリツトン調査委員會も報告せる如く世界の平和に對する一つの問題である

七、支那といま一つの大國ソヴエート露西亞の傍に日本がある、これ等隣邦の過去二十ケ年に於ける狀態は日本に對して憂慮に滿ちた關心を抱かしめた、吾々の憂慮は未だ終つてゐない

八、日本は滿洲が法と秩序との平和の國土となり東亞のみならず世界全般の利益ある國土となることは日本の希望である、この目的達成の爲めに日本は永く支那と協力する用意を有す、しかも多年に亘つて求めたのである、然し乍ら支那人は吾々の友誼と援助の申出でを受諾しやうとせず、支那人は日本人を以つて侵略者なりと非難し、歴史的背景を無視して日本人を滿洲より驅逐すべく日本を最早や滿洲の開發に參與せしむべからずと主張し始めた、かかる支那人の態度及び暴力運動こそ紛爭事件の原因である

九、日本が滿洲に置いてゐる重要性については今更贅言を要しない、余はこの重大なる時期に當り再び諸卿に對し、日本が滿洲に於て二回も戰爭を行つた、殊にその一つに於て國家の存立を賭したものであることを想起するや、希望したいのである

十、列國は支那に關しては永い間お伽噺を事として來た、支那本土内に於ては統治能力ある中央的政府は未だ曾て存在したことはなかつた南京政府は四省にも足らざる省の政務を統轄してゐる狀態である

十一、日本が過去に於て極東の平和秩序及び進歩の要素であり將來に於ても然あるべきことは日本政府の確乎たる信念である、日本が滿洲國の獨立の維持を固執してゐるのはこれが極東に於ける平和と秩序との唯一の保障と確信ある信念に基いたものである

十二、今回の日支紛爭後に於ても日本は和協政策を繼續した、若し支那がこの時に協定に到達する眞摯なる希望を以つて日本と交渉することに同意してゐたならば協定は困難なくして達成されてゐたであらう、支那はこの道を採らず國際聯盟に訴へた、聯盟は極東に於ける問題の眞相、現實の狀態を充分諒解せず支那に激勵を與へたのである

十三、聯盟が日支紛爭を處理するに當り誠意を以て努力したことは疑ひ得ない處であるが實際に於ては聯盟の行動は常に支那に誤つた希望を與へ、支那をして益々和協反對の態度をとることを激勵する結果となつた

十四、日本は支那に調査委員會の派遣方を聯盟に提議するに當つては聯盟が支那の事態の眞相を充分諒解するを以つて緊要なりとの信念にかられたのである、然しその結果は日本にとつて失望すべきものであつた

十五、余は滿洲國の住民について一言したい、リツトン報告書はこの點に關し世界に對して誤つた印象を與へてゐる、調査委員會が基礎となし得る如き權威ある人口統計はなかつた、信憑するに足る支那の國勢調査は支那本土に於てすら未だ甞て行はれたこともない、滿洲國人民の大多數は支那人民と明確に相違してゐるそれは體格上の外見に於て異り幾多風俗の點に於て異つてゐる

十六、十九ケ國委員會の報告書に關しては余は批判的見解を述べざるを得ない、我國の滿洲に於ける良き事業は報告書草案に於ては記錄されてゐないが而も現實に存在し、滿洲國に於てこれを見ることが出來るのである、我々が滿洲に於て達成した物資的發展は我々の努力と我々の能力との記念碑である、滿鐵附屬地の繁榮狀態は我々の努力に影響された、支那都市の改善、廣汎な工業上の企業、學校、病院、技術的諸機關總てこれ等は支那の行政下では全く存在しないものであり、我々の努力と我々の能力に對する證左である

十七、報告書の第一條には本事件紛爭に包含せられる諸問題は極度に複雜なるを以て一切の事實及び其の歴史的背景に關し充分なる智識あるもののみこれに關する決定意見を表明する資格ありとあるが總會各代表諸卿が何れもリツトン報告書さへも精讀してゐない事實に徵し之も確實か否かを疑ふものである

余は余の支那の同僚に對し一つの質問を提起する、即ち果して支那政府は究極に於て詰めれば結局支那に對し何等かの形式の國際管理を課せんとすることを豫定する勸告を受諾する用意があるか、貴下は總會各代表の前に此點に關する貴國政府の立場を明確にせられるのであるか

十八、現紛爭に關する聯盟の態度は終始、諸條約並に平和の諸原則の神聖を維持せんとしてゐるが、此努力は事態を更に混亂せしむる結果となつた、現に我々に懸念を與へてゐる熱河事件は將に其適例であるし余は聯盟の決定を動かさんとする目的に出た支那側の辭に外ならぬ若し南京政府よりの敎唆がなければ學良が長城を越えて進出することもなかつたであらう、而して南京政府は聯盟が日本に對して採つてゐる態度に力づけられてゐるのである、日本は流血の慘事を見ることを欲せず、學良を說得してその軍隊を撤收せしめやうと努めてゐるのである

十九、本報告書を採擇するときは支那側に對し彼等が一切の責任を許され、從つて依然として日本を侮蔑し日支兩國人の感情を更に惡化せしめるに過ぎないであらう

人事往來

▲野崎三等主計正（關東軍倉庫哈爾賓庫長）二十四日午前六時三十分來京同日四時三十分發奉天へ
▲小森少佐（將校滿洲觀察團第六十八聯隊）同上
▲原少佐（新京憲兵分隊長）二十四日午後四時着列車にて公主嶺より歸京
▲新居三等主計正（奉天經理部派出所長）二十四日午後四時三十分發奉天へ
▲木村三等主計正（間島派遣經理部）同上
▲小川大連市長同上
▲宇佐義寛氏（哈爾賓鐵道事務所長）同上
▲青木信一（新京鐵道事務所長）同上
▲坂本中佐（新京憲兵隊司令部）二十四日午後七時五十五分着列車來京
▲李文炳（濱江警備司令官）十五日午前八時着列車で奉天から來京
▲孫其昌（財政部次長）二十五日午前九時發奉天へ

反滿洲國軍に對し徹底的戰火浴せらる
廿一日より日滿軍行動を開始　各地に日章旗飜る
―廿五日正午記事解禁さる―

日滿兩國聯合軍の反滿軍討伐作戰は過般來一齊の報導を禁止せられてゐたが聯盟の態度判然帝國また聯盟と絕緣を決意壽府引揚げに決し一方熱河各地反滿軍のいよいよ出でいよいよ暴戾なるに遂に最後の寶刀は拔かれ全面的戰鬪が開始せらるるに至り廿五日正午を期して戰報に關する揭載禁止を解除されまづ武藤關東軍司令官は左の如き宣示を中外に發表した

熱河經略に關し　關東軍司令官宣示

滿洲建國玆に一周年、內諸政軍り群匪劃討せられ民衆和平に樂まんとし、外日滿の親善愈々敦厚を加へ列國は聯盟の名に於て滿洲國の獨立承認を治政的に回避するの傾向あるも、一新國家の現實的成立に對しては經濟的に於て事實上諒解するの已むを得さる現勢に在り。

此初に當り獨り熱河省の疆域のみ舊態依然として軍閥の跋扈に委し匪賊亦跳梁し加之北支政權の軍隊稟りに省內に侵入し、今や同地方の住民は苛斂誅求に生色無く而も熱河混亂の餘波は全滿民心の安定を阻碍すること尠少にあらす。

事態此の如きを以て今次滿洲國政府は其國軍をして大擧熱河省の肅淸を斷行せしむることとなれり、惟ふに同省か滿洲國の疆域たる事實は同省の地理的位置と悠久四千年の歷史とに鑑み將又滿洲建國の宣言に明徵せられ寸毫の疑義を挾むへからす、換言すれは今回の事たる滿洲國の爲には單なる國內問題を解決するに過きさるなり。

軍は日滿親善の精神に基き如上滿洲國の崇高至當なる行動に對し滿腔の贊意を表し所要の兵力を以て協同事に膺ることとなれり、從て軍は其實力行爲を滿洲國領域外に脫逸せしむるか如きは斷して好まさる所、然れとも北支政權にして我軍に對し積極的實力行動に出するか如き場合に於ては戰禍恐いて北支に及ふも亦已むを得さるへきは何人と雖も首肯し得る所にして、其責任の彼に屬すへき亦固より當然なり。

之を要するに軍の庶護する所は滿洲國の健全なる發達と東洋全局の和平にあり、玆に熱河の事起るに當り如上の主旨を中外に宣明し以て公明正大なる我關東軍の態度を鮮明ならしむ矣。

昭和八年二月二十五日、

關東軍司令官　武藤信義

日滿兩國軍相呼應
愈よ熱河の討伐へ　兩軍向ふ處敵なく
既に開魯北票を占領す

（關東軍司令部發表）二月二十五日午前十時滿洲國內の肅淸に伴ひ熱河省に逃入したる匪軍並に湯玉麟麾下の反逆軍は昨年末來續々として省內に侵入せる東北正規軍等と相呼應し滿洲國の治安を亂し最近內張學良の思想と外聯盟の空氣に刺戟せられて頻に其行動活潑となりややもすれは攻勢に轉せんとする氣勢を示すに至れり、日滿兩國政府はあらゆる和平手段を講じ彼等の不逞暴虐の行爲を抑壓せんとしたるも其効無きを認め、遂に實力を行使して反滿抗日軍を一掃し以て治安を回復するに決し軍を部署し、先づ最近頻に挑戰的態度を採り、且つ來りし北票鐵道（錦州より北票に通ず）の術工物を破壞する兵匪を驅逐する爲め早川枝隊を朝陽寺より派遣せり

該支隊は星さへ凍る二月二十一日未明に行動を起し途中大なる抵抗を受くる事なく午後一時頃早くも北票に進出せり、鐵道は所々破壞せられありしも南嶺隧道は枝隊の迅速なる行動によりて爆破を免れ、又大凌河鐵橋は短時間に之れを修理することを得たり。飛行機其他の偵察によるに朝陽寺市內には二三百の乘馬部隊あるものの如く又大平房、凌源間には部隊の移動盛んなり。之より前朝陽第四區公安局長等は我軍に歡迎文を寄せ一刻も迅速なる進軍を希望せり、爾後此種の意志を表示する者續出し熱河省民の間に於ける反湯氣分の濃厚なる眞に驚くに堪へたり

熱河省北方地區にある匪軍は劉桂堂軍の歸順に徵して明瞭なるが如く全般的に動搖の色あるも馮占海李海靑軍の如きは北平救國後援會より受くる軍費及軍需品の補給概ね完了し、機を見て舊出身地吉林及黑龍江省に進擊せんとする兆著しきを認め、日滿兩軍は連繫して之等兵匪を討伐する爲め二十三日早朝雪を交ゆる朔風を衝いて通遼、彰武、朝陽寺の線を出發せり、通遼より前進せる茂木部隊は同日午後道德營子附近に於て熱河軍崔

朝陽附近今や　敵匪の集團を認めず

（錦州二十四日發國通）早川部隊は口北營子と朝陽の中間を進擊中であるが、朝陽附近には敵匪の集團部隊を認めず、早川部隊は無人の境を行くが如く二十五日午後には朝陽に入城する見込である

滿洲國軍騎兵部隊　早くも○○を占領
疾風迅雷の王永淸旅の活躍

賀武騎兵旅第五十七團を擊破し、二十四日午前十一時開魯に侵入し、城內高く日章旗を揭げ全員東方に向つて萬歲を三唱した、住民は城外に整列して我軍を迎へ各戶には早くも日章旗の飜飜として飜へるを見る

中央縱隊は同時刻哈拉燈街に到着し、左縱隊も又豫定の如く前進を續け、白雪皚々たる曠野を防寒服に身を固めたる大縱隊が決意行軍する光景は成吉斯汗の往時も偲ばれ我陸軍史未曾有の壯觀にして皇國有史以來の快事たらずんばあらず

熱河省瞻范一萬一千四方里其部隊は山岳重疊し敵兵匪賊其間に在りて壘を高くし或は頑强なる抵抗を試みる事あるべきも、關東軍將兵は　大元帥陛下の御稜威と同胞の熱誠なる後援により速に熱河平定の重責を達成し以て滿洲國の基礎を固め東洋平和に貢獻せんことを期して士氣頗る旺盛なり（號外再錄）

（通遼特電廿四日發國通）滿洲國軍隊先遣部隊王永淸の騎兵旅は吹雪を衝いて○○方面へ進擊し、後續部隊も續々進擊した

（○○廿四日發國通）滿洲國軍先發部隊王永淸の騎兵旅は白雪を踏んで脫兎の如く○○へ到着した

滿洲國軍愈よ南進を開始す
總司令部移動迫る

（通遼二十四日發國通）○○に集結中の前敵總司令張海鵬の指揮する東遼警備軍、蒙古騎兵は討熱總司令部の進擊命令を受け全軍集結を待たずに程建國第二軍と呼應し愈々大討伐を行ふ事となり戰鬪部隊は南進を開始し總司令部の前線移動は迫つて來た

北票線全通

（北票二十四日發國通）十月以來暴虐なる熱河兵匪の爲破壞され爾來不通となつてゐた奉山線北票支線は全通した。開通と共に同地一帶は俄かに活氣づき半歲に亙つて物資の缺乏に惱んでゐた沿線の住民は歡喜してゐる

熱河討伐の魁
早川部隊、廿二日北票入城

（朝陽寺廿二日發國通）張學良の使嗾に乘つて錦州方面に逆襲せんとする叛徒の機先を制すべく熱河討伐最初の

……火蓋……を切つて北票に入城した我討匪軍中央攻擊部隊たる第○○團長麾下の早川部隊は、二十日午後最前線部隊として錦州出發二十一日午前一時朝陽寺に集結、隊伍を整へ早川主力部隊を中央に右翼平柳枝隊左翼島村枝隊の三手に分れ、二十一日拂曉勇躍北票に向つて一齊に進擊を開始した、朔風吹き荒む朝まだき、起伏する丘陵の積雪を蹴つて皇軍將士は元氣一杯に進軍、又進軍島村枝隊の鈴木分隊は早くも南嶺驛を占領午前八時大凌河南岸に至るや散兵線を布き堅氷を突いて一擧口北營子に迫る、我軍の一擊に南嶺を放棄して後退した兵匪と合した口北營子の敵匪約一千の大集團は山上の陣地より迫擊砲、小銃の猛射を以て抵抗する、此間島村枝隊の第一線は第一高地を占領、第二高地に

……肉迫……せんとし、第二線の早川部隊も遅れじと第一高地頂上に達するや敵の攻擊益々激しく先頭に進む水上藤吉二等兵は迫擊砲彈の爆破破片を浴びて棒狀になつて斃れ最初の尊き犧牲となつて戰死し、他に五名の負傷者を出すや將士の意氣極度に昂る、敵匪は我軍の猛擊に次ぐ猛擊に支へ切れず午前十一時雪崩れを打つて北票方面に退却した、我三部隊は附近一帶の殘匪を掃蕩しつつ、同夜島村枝隊は口北營子驛に、早川主力部隊は同驛南方に、平柳枝隊は北方の各部落に宿營、二十二日未明錦朝枝線の末端北票に向つて、總攻擊を開始午前十一時島村枝隊は先づ北票に入り、續いて午後一時二十分早川部隊は旭光に映ゆる○○旗を先頭に威武堂々入城した、敵匪一千五百は前日口北營子の一戰に皇軍威力を初めて知り、怖れをなして夜半二時散を亂して北方に

……潰走……したもので、此處に熱河の一咽喉を完全に占據し錦朝支線交通確保の目的を達成した住民は歡呼して王道善政の臨光に浴した

皇國の熱河入り　蘇武の詩を想ふ
坂田第四課長の感懷

今や日滿兩軍は熱河省內に暴虐を逞しゆしつつある反滿抗日の反逆軍並に匪賊討征の爲め星も凍る酷寒と鬪ひ皚々たる白雪を踏んで山岳重疊せる熱河の曠野に征馬を進めてゐるが、其情景を追想した關東軍坂田中佐は「熱河は往古の匈奴だが往古蘇武が匈奴攻略の軍を起して匈奴に攻入つた時の詩にこんなのがある

月黑雁飛高單于遠遁逃
率輕騎欲追大雪滿弓刀

これは當時蘇武が匈奴討征の陣中にあつて其感懷が詩となつた譯であらうがこの唐詩は實に能く熱河の情景を唄つてある許りでなく目下討征陣中にある日滿兩軍將士の心情にもピツタリ合致する熱河方面からの情報を聞ひただけでも自分は直ぐにこの唐詩を思ひ出した位だから日滿兩軍將士の中には陣中で自分と同じ追憶に耽つてこの唐詩を思出して居るものが何人かあることであらう」云々と感慨深かげに語つて居た

國際の運轉手　また行人を轢く
運轉手は何れへか逃走

二十五日午前九時半頃、國際運輸の貨物自動車が石炭運搬馬車と衝突馬夫に重傷を負はせ運轉手助手の二露人は逃走したる事件がある………東三條通二十九何某外二名が石炭を滿載した馬車に附添ひ運搬中東廣場北方二十米突の地點を南から北へ行く途中該自動車が衝突何某を轢き倒しそのまま雲霞と逃げ去つたが同行者が雪に殘つた轍の跡を追つて突き止めた處國際運輸構內に九十三號の自動車が在り運轉手露人アルカイチボスト助手トルコスキーは何處にか姿を晦ました後であつたが新京署では引續き搜索してゐると、何の傷は滿鐵醫院で手當を施したが右助骨三本を折り右眼を四針縫ふ瀕死の重傷であつた

右に就て寶際保安主任警部は語る

どうも國際では無免許運轉手を使ふからこんな間違ひを犯す、それも再三再四注意したに拘らず今度のも無免許の露人で事面倒と見て逃走したものだらう、今後は雇者被雇者双方を嚴罰する方針だ云々

國際運輸の責任者は語る

何とも申譯ない事ですが實は軍の方で或る自動車の運轉に白露人を使ふやうに命ぜられたが當地の白露人には自動車運轉手の免狀のあるものは居ませんので稍出來るのを使つて居ります今日は恰度車が痛んだので他の車を運轉させて居たものです云々

滿洲軍堂々前進
敵軍の足並み崩れて　學良側大狼狽

滿洲國軍は諸種の都合で其の北部兵團の集中が遅れて居るが總司令官張景惠氏は日本軍と協同する爲め集中完結を待つことなく斷然總攻勢前進に移るに決し二月二十二日前進命令を下達した。前敵總司令官張海鵬氏は目下○○にあつて隷下兵團の集中を部署しつつあるが右命令を受くるや直ちに洮遼軍の騎○千○百と程國瑞中將の率ゐる建國第二軍に前進を命じた斯くて二十三日寒風強き中を討熱作戰軍の先鋒は堂々として前進に移つた

因みに總勢○萬○千名に上る全軍の運動は逐次に行はれることとなるが滿洲國創設以來の偉觀といふべく滿洲國の嚴乎として存在する事實を中外に宣揚するものと見られて居る

尙一萬餘の大兵を擁する劉桂堂が滿洲國軍に策應することとなつたのは既に報ぜられるところであるが常分護國遊擊軍の名を以て行動する

劉桂堂の今回の行動は學良側を大いに狼狽せしめたが敵軍中にはお外○萬の兵力を有する軍長○○○、旅長○○○、○○○、○○○、○○○、○○○などを始めとし○○など異心を抱くものの續出の有樣で學良の作戰は其第一歩より崩壞しつつある

全滿日本人大會
首都新京で開かる
各地總動員氣勢を揚げん

新京時局後援會では二十四日午後一時から滿鐵地方事務所內で幹事會を開いたが、席上非常時局に際して大連、奉天同樣、居留民大會を開いて大いに

＝氣勢＝を上げては如何との全滿日本聯合會の激勵に對して協議の結果、今や松岡全權の引揚げも近く聯盟脫退も目前に控へてゐる此際、大連又は奉天に行はれた如き大會では意味をなさない、暫らく內面的に擧國一致の氣分を養ひいづれ時機を見て全滿日本人大會を首都新京で開催し、全滿各地から代表、鬪士などを總動員して大々的に事を擧げやうといふに意見一致した、時機方法はいづれ追つて決定を見るわけだが唯だ單なる對聯盟問題といふに止まらず

＝聯盟＝脫退後の非常時局に直面して滿蒙の第一線に立つ吾々同胞としては、より緊張して難局に處する覺悟が必要であり、滿洲國の首都新京においてかかる大會の開かれることは最も有意義なことであらうと云はれてゐる

前借踏倒しの　活辯夫婦捕はる
潛伏中を新京署に

千葉縣千葉市生れ新京祝町二丁目松浦方活辯田中正夫（二九）內緣の妻齋藤靜子（二七）の兩名は朝鮮平壤で知合となり夫婦を約し一昨年十一月頃撫順東三條通二十一番地五號樂天館の活辯として働く內昨年十二月二日兩名共謀し撫順新楊町十二番地飲食店江戶川事喩田健吉方の仲居として前借百五十圓を借受けるや、直に兩名は謀合して新京に高飛し、男は前記場所に、女は月桂冠の女給として潛伏中を撫順署の手配により二十四日午後五時逮捕した

我軍朝陽に進入

（關東軍司令部發表）飛行機の偵察によれば、我騎兵は二十五日午前十一時朝陽に進入せり

午前十時四十分飛行機偵察の結果、敵約二千は朝陽の建平に向へり馬欽飛飲千、楡樹林を退却中なり

朝鮮定州局の局員　行嚢を破り
二千圓を竊取逃走

朝鮮定州局臨時集配人崔炳康は二十二日行嚢受渡しの際行嚢の口を切り現金二千二十圓を竊取行方を晦した、同人が京に高飛した形跡があるため二十五日新京署に取押方手配かあつた

語學練習の　發表會開催

二十七日午後一時室町小學校で第四回語學練習發表會を開催する參加學校は室町校、西廣場校普通學校及び公學校兒童で一般の參觀を希望してゐる因にそのプログラムは左の如くである

プログラム

開會の挨拶大谷
△曾、アメケヨコの天使、話、補習科一年、李元模、華語
△公、友情、劇、高級一年男、室外七名、日語
△室、病、對、高一、二男、品川外五名、華語
△西、買我們一家子去做甚麼、劇、尋五男、田中外一名、華語
△公、故鄕、獨、初級四年甲、趙蘭芳、日語
△曾、猜謎兒、對、速修科、金金德容、華語
△た、滿蒙開發、劇、高級二年男、劉外七名、日語
△西、笑話、話、尋四女、川野中村、華語
△公、祭り、話、初級三年甲、葛九如、日語
△室、蘇武小放牛、齊、高一女、吉田外二十五名、華語
△室、予撲、象、劇、高一二男、山崎外六名、華語
△西、三千萬民、劇、尋、中西外二十名、華語
△曾公西室、民族融和舌切り雀劇、王外十七名、日語
閉會の言葉

曾は曾…學校、公は公學校、西は西廣場校、室は室町校獨は獨唱齊は齊唱

日曜基督集會

日本基督教會は二十六日左の如き集會を行ふ
一、日曜學校九時——十時
二、朝の禮拜十時——十一時「パウロの聖職觀」吉川牧師
三、夕の禮拜七時——八時 主催青年會の牧師應援（新讃美歌練習あり）

吉凶禍福

△新京錦町三丁目七番地滿鐵社員山口正太氏次男德七郎、二十日午前五時出生

花街　曙の豊千代

これはアケボノのイキさんでありますイキなんてそんな變な名の藝者があるものかと思はれるでせうが、實はそれは本名です、しかもそのイキといふ字が頗るむづかしい字であることは先に御紹介したことがありますからここでそれをくりかへすことをはやめませう

×

イキさんとよんでもハーイ、豊千さんとよんでもハーイツ、豊千代さんとよんでもハイーと答へますやうに本名の外に藝名を二つも持つて居ります アケボノへ出てからは市子とよぶやうになつてゐるんですが、八千代になる時よび馴れた豊千代とよぶ人の方が多いさうです

×

八千代をやめてからしばらく內地へ歸つて居りました時、かねてその方は得手であつた裁縫をみつちり研究したさうで、仕立物で樂に暮してゆけるだけの腕前をもつに至つたさうでありまして、姉さん付千代さんはいい婿さんがあつたら嫁入らしたいと云つて居りました希望者はありませんかしら

大正九年十二月十四日 第三種郵便物認可

新京日日新聞

定價 一部 金三錢 一個月 金八十錢 郵税 一個月 金十五錢
新京永樂町四丁目一番地 發行所 新京日日新聞社
發行人 十河榮忠 編輯人 松本男 印刷人 谷磨二郎

自衛行動による新事態は關知せず
學良及南京政府に決意を表明
謝外交總長の宣言

滿洲國政府では熱河討伐に關する最後的決意を披瀝するため、謝外交總長の名を以て左記宣言を發表した、同宣言は二十五日正午南京政府外交部長羅文幹並に張學良に宛て發出された

吾滿洲國は建國以來日本軍の協力を得て略々國内の匪賊を討平したるも、其の殘黨は吾の北滿方面に兵を用ひて顧みるの暇なきに乘じ、擧て熱河省内に集結して吾執政の下に王道樂土の慶福に浴せんことを期待せる人民を搾取虐待し、更に北支軍閥は南京政府と連絡して恣に大軍を同省内に移動して吾國主權を侵犯し、匪賊と合作して吾人民を虐遇しつゝあるの警報頻りに至れるに鑑み、吾政府は曩に屢々南京政府及北支軍閥に對し其の非違を指摘し其の軍隊の退去を要求したるも、彼等は之に對して一言の返答も爲さざるのみならず最近益々大軍を增派し暴虐を重ね今や事態寸刻も猶豫し難きに至りたり、茲に於てか吾政府は斷乎必要の兵力を急派し同省内の匪賊を徹底的に剿滅し侵入軍隊を驅攘するの決心を固め、同時に日滿議定書の精神に依り日本軍に對し協力を求め、既に其の同意を得たり、固より吾國は右討伐に依り熱河省民の痛苦を除き、國内匪賊の平定を完成すると同時に、北支軍閥の侵略行爲を排除して吾國主權を擁護せんとするの外他意あるに非らず、從つて吾行動の範圍は嚴に吾國境域内に限らるべきも、若し北支軍閥にして悪辣なる策謀に依り吾國の自衛行爲を止むを得ざらしむるに於ては其の結果惹起せらるべき總ての事態は全く吾國土を侵犯せる南京政府及北支軍閥の責任なることを茲に宣言す

歸順、戰捷續々到る
狼狽した湯玉麟が聯盟に泣言を並べる
中央へも應援要求電報を發す

〔天津廿五日發國通〕日滿軍の攻擊着々奏効し出征の師は本日を期し本格的に開魯、朝陽、凌南の三方面より承德の熱河軍本據をつく可き全面的討伐戰に移らんとし、支那軍は連日長城を越えて盛んに熱河戰線に配送されつゝあつたが、連敗に浮腰立つた全軍の士氣阻喪は如何とも爲す能はず、前線に督戰しつゝあつた湯玉麟は焦慮惑亂の餘り昨日更に南京中央黨部及び政府等に救援を打電すると共に國際聯盟に對し

全軍全力熱河を守らんとす、日本の聯盟侮蔑は極點に達す、聯盟は如何なる有効手段を以つて日軍を制裁するか、熱河戰急なり速かに强力なる制裁を請ふ

との哀訴歎願の電を發し、狼狽振りを示してゐる

今度こそは！
皇軍飛行將校の意氣
―包生活の苦るしさ―

〔通遼廿二日發國通〕通遼坂下特派員〕通遼を目差して雲集する匪軍を物の見事に爆擊退散せしめ、危險に瀕したる通遼を救つた皇軍飛行隊の將士を

＝訪問＝ すべく、砂塵の路をガタ馬車に搖られ乍ら飛行場に向ふ、飛行場は城外の北はづれの砂漠を利用して臨時的に造られたもので周圍には塹壕が掘り廻されてゐる、匪軍を擊破した我精銳機は目前に雄々しい姿を横たへて居るではないか、僕は思はず萬歲を唱えた、皇軍將士は今や機體の手入れに餘念が無い、土砂を含んだ冷たい風が遠慮なく吹き込んで來る、之等將士は夜は家とは名ばかりの堀建小屋にごろねして夜を明かすのだ、郷里の山野も親兄弟妻子も御國の爲の一念に暫し胸中から拭去られた生活だ、折しも爆音勇ましく上空に一機が姿を見せた、今迄機體の手入をしてゐた將校は「あれは今朝〇〇方面の偵察に行つた田中機です」と教へて呉れた、機は大旋廻の後鐵條網の外に着陸した、次いで兵士の手で警護場の中に入れられる、飛行機から降り立つたのは田中中尉と西谷軍曹である、西谷氏は「今度こそ思ふ存分働いて空軍の威力を示す心算だ」と極めて力強い一言を殘して隊長に報告の爲包の中に入る、飛行隊の宿舍と言ふのは

＝地面＝ を一尺ばかりほつて包（蒙古小屋）を造つたもので乞食小屋の樣である、此中に多數の兵士が入つて居るので換氣惡く卒倒した者さへあり、其苦勞は一通りではない、砂漠の中に今後幾日かを此包生活を續けて奮闘する飛行隊に心からの感謝を捧げつゝ馬車に乘つて歸路に就けば砂漠の彼方に赤い太陽が沈んで行く

寫眞は飛行隊の宿營する蒙古包

滿洲國軍更に南進
張將軍開魯入城

〔開魯二十四日發國通〕滿洲國軍は開魯から更に南進を開始した、尚張海鵬は二十四日正午開魯に入城した、城門には滿洲國旗が揭揚されてゐる

朝陽の敵軍は
建平に向ひ退却中

軍司令部發表、又朝陽に在りし敵は建平に向ひ退却中にして午前十時四十分飲馬地榮子楡樹林間を行進中なり

滿洲國軍の風を臨み
熱河各軍匪歸順多し

〔通遼廿五日發國通〕滿洲國軍張海鵬將軍麾下の騎兵三萬は續々通遼へ向ひつゝあり、張將軍の前敵總司令部は近く開魯に移り更に赤峰を經て熱河省の首都承德に向はんとしてゐるが、熱河省の大小の匪團、自衞團、正規軍、僞勇軍は風を臨んで投降歸順を希望し、密使を以つて通遼の前敵司令部に申込む者續出滿洲國王道の威正に昇天の觀あり

茂木〇團の開魯入城
商民歡呼して迎ふ

〔通遼廿四日國通牛島坂下特派員〕二十三日通遼を發した茂木〇兵〇團の先頭は早くも二十四日正午開魯城東門に達した、東門入口には日章旗雪空に高く翻り、城内各戸には悉く眞新しい滿洲國五色旗が揭げられ、商民は積雪を物ともせず手に手に日滿國旗を打振り老若男女總出で皇軍を歡迎した商民等の高唱する「日本軍萬歲」「滿洲國萬歲」「王道樂土萬歲」の聲は天地を盪るがす、敵匪は之より先日滿軍來ると聞き風を喰つて西方に遁走した

日滿兩軍の永駐を
開魯民希望す

〔通遼二十五日發國通〕二十四日午後記者は總司令部に於て當開魯縣長と會見、縣長は語る

開魯市中は兵匪の掠奪で物資皆無、住民皆飢と寒さに泣く、日滿兩軍來るの報に住民を代表して通遼に來た市民は心より日滿兩軍を歡迎、永久に駐屯して貰ひたい希望を陳情してゐる

朝陽東北の敵陣を
我軍猛烈に砲擊

〔錦州廿五日發國通〕鈴木部隊は二十四日蛇牛營子、石門子溝の線に前進したが二十五日午前八時より朝陽東北方地區に陣地を構築して蟠居しつゝある敵匪に對し猛擊を開始銃砲聲天地を震駭せしめつゝあり

全身これ膽 天晴れ
鐵道突擊隊の小淵軍曹

〔北票二十二日發國通〕北票一番乘りの裝甲自動車に搭乘、不幸敵彈の爲め背部に盲貫銃創を受け生死を氣遣れつゝある、小淵信太郎軍曹は、二十一日午後三時半全軍が敵の猛射を浴びつゝ北票驛前一千メートルの地點に近づくや、敵は地形を利用し機關車を坂下しにして我裝甲自動車を破壞せんとする模樣あり水間中尉の命令の下に金子上等兵を從へ、大膽にも敵彈雨と降る中を五十メートル位敵前方に走りながら交替に機關銃をつけつゝ裝甲車を前進せしめ、遂に北票驛前五百メートルに迄迫せしめたが、敵の猛射愈々加はり水間中尉は危險と觀て兩人に乘車を命じ、敵の猛射に裝甲車中より機關銃を以て應戰せんとした際、不幸敵の一彈は裝甲車の鐵板を貫き軍曹の背部を見舞つたもので、其沈着大膽な行動は稱歎されてゐる

滿洲軍第二枝隊も
勇躍開魯に向ふ

〔通遼廿五日發國通〕滿洲國軍第二枝隊張海鵬の二千は先發の第一枝隊、第三枝隊の開魯入城に勇躍し二十四日午前八時勇軍の跡を追つて前進した

下窪の馮占海
家族家財を承德に送る

下窪に蟠居し熱河匪軍中の一大勢力であつた馮占海は日滿兩軍の前進の報を聞き早くも家族及び家財を承德に送つた

開魯縣長等
皇軍歡迎に
通遼に來る

〔通遼廿五日發國通〕二十三日開魯より縣長黃雲卿、警務局長韓院卿氏及び義商務會長等住民を代表し通遼に來り張海鵬上將を訪問、日滿兩軍の歡迎の意を表明し種々陳情したが前敵總司令部と共に隨行する筈

聯盟今後の態度
日、米兩代表の會談

〔ジュネーヴ二十五日發國通〕總會散會後軍縮アメリカ代表ギブソン、ウイルソン兩氏は松平大使を訪問して三十分間懇談し、聯盟今後の態度に付き日米の方針を會談したと解されてゐる、其の結果松平大使は歸任を延期し數日滯在と決定し、何事か政府へ打電した

尙松岡代表は二十七日朝アメリカ經由歸朝の筈

擧國一致
國力の充實が急務
松岡代表送別會席上語る

〔ジュネーヴ二十四日發國通〕松岡、長岡、佐藤三代表は愈々ジュネーヴを引き揚げるに際し、二十四日午後八時日本人八十餘名をホテル、メトロポールに招待し送別の晩餐會を催した、席上松岡代表は

事こゝに至つたのは頗る遺憾であるが、外交も結局は國力の反映に過ぎない、今後の我々の急務は國力を充實するに在る、今後の外交は頗る重大だ、今や擧國一致、國民外交の實をあげる時である

と述べ、長岡大使の發聲で天皇陛下の萬歲を三唱十時過ぎ散會した

我方針の善惡を
事實で聯盟に知らす
總會終了後松岡代表語る

〔ジュネーヴ二十五日發國通〕總會終了後松岡代表は語る

萬事終つた、そこに開けた新たな道は日滿共同の發展に依り聯盟の連中へ日本の方針が良いか惡いか見せる丈けだ、大和民族は外部壓迫の度毎に成長し來り、今度こそ世界的試練の時だ、シャムが多數に媚びず棄權したのは何を語るか

遂に自らの墓穴を掘つた聯盟
＝外務當局談＝

〔東京廿五日發國通〕報告書採擇の報に外務當局は非公式に左の通り語つた、之で聯盟は完全に極東問題に無理解と無誠意を暴露した、歐洲の政情に眼がくらんで、日本の主張をきかない、聯盟と之れ以上滿洲問題を論議することは出來ぬ、かくて聯盟は自身の墓穴を掘つたわけだ

丁士源將軍
重任を果し
十九日ナポリ發歸國

曩に執政の個人お代として歐洲に出發各國を歷訪中の丁士源將軍は愈々重任を果したので十九日ナポリ出帆の榛名丸に便乘歸滿の途に就いた旨二十五日外交部に入電あつた

滿洲國の阿片問題（五）
醫學博士 久保田晴光

（六）阿片仲買人

罌粟栽培者の採取製造した生阿片は之を政府に買ひ上げるのであるが、交通不便の僻村に於て、此所彼所に政府の出張所を設くることも不便であり、又農民が各自製造の阿片を遠隔の役所に持ち行くことは馬賊や土匪の危險がある、そうかと云ふて農民が協力して組合を作り共同の保管、納入に當るほどに文化は進んでおらない、のみならず阿片を政府に上納しても直ぐにはその代金を拂ふて貰へない。政府はその中に含まるゝモルヒネその量其他の品質を檢查した上でなければ賠償金を支拂はない、是等の事情は特定、官許の仲買人の存在を必要とするのである、即ち生阿片を農夫から買ひ集め、之を政府に收納するまでの仕事を司るのである、仲買人制度は農民の保護機關で、製造阿片の保管盜難豫防、又時に依つては耕作資金の融通、阿片擔保の融資等は凡てこの機關に依つて非常な便宜を受けるのである

政府はかゝる仲買人を指定許可するに當つては、その人物資産等に注意すべきは勿論、その人物と農村との關係等を考慮し、一定の保證金を納付せしめて、不正の取引が行はれぬ樣に監視しなくてはならない、取引に關しては帳簿を備へ付けさせ、その受け渡し數量、取引人名年月日その他必要なる事項を記入せしめ、何時にても政府の監察員巡回來訪の節は之を提示して檢閱を受け、取引上些の不正のなきことを明かにし得る樣にして置かねばならぬ

以上は國内生產阿片に對する仲買人であるが、生產阿片は煙膏製造原料として不足する樣な場合には、原料阿片の輸入を取り扱ふ仲買人の設定も必要であらう、かゝる仲買人に關しても前記に準ずることは勿論である

（七）煙膏の製造

阿片仲買人の手を經て收納せる阿片を以て、政府は効力一定せる煙膏を製造して需用者に配給するのであるが、効力の一定とは主としてその中に含まるゝモルヒネの量を一定することであるが、その風味は需用者の嗜好に適するや否やも一考を要する、原料阿片中に含まるゝモルヒネの量は不定である、從つて之から製造した煙膏中のモルヒネ含有量も一定しないわけである、故に煙膏中のモルヒネ含有量が一定量を超ゆるときは、賦形藥を加へて之を稀釋し、又反對にモルヒネ量一定量に達しないときには、別にモルヒネを加ふる必要がある、賦形藥として用ひらるゝものは、糖蜜、果泥、メリケン粉、植物油、植物越幾斯等の中の一種又は數種が混和調製せられるものである、その調合の割合製法等に就いては種々なる方法はあるが、要するに阿片に最も近似の色澤、稠度、味趣を装はすものは最も珍重されるのである

煙膏の藥效を一定することを必要とする主なる理由は、若し癮者の日々吸食する煙膏の效力が一定せずして、ある時は效力の幾分弱いもの、又ある時は幾分强いものを不規則に吸食するときは、その吸食は自然と强きに慣れ、その吸食量を次第に增加せざるべからざるに至る危險があるからである

尙この煙膏は政府に於ていなるべく小分量の包裝をなし一定の緘封を施すべきであるそうすれば煙膏は民間にあるときは果して官製のものであるか否かを見分け易く取締りに便なることゝ又密に國外に輸出せらるゝことを防止するに役立つのである

經濟欄

海外經濟

▲銀塊及爲替

倫敦銀塊 一七片一六分五
同 遠限 一七片八分三
紐育銀塊 二六仙八分五
孟買銀塊 三三留比八分三
米英爲替 三弗四仙八分七
日爲替 二〇弗三七仙
米支爲替 二九弗〇〇〇
スチール株 二六弗〇〇〇
アナゴンダ株 六弗八分一

▲綿花

●米綿 物 六仙一五 三月限 六仙二〇 五月限 六仙三一 七月限 六仙三六 十月限 六仙四四 十一月限 六仙五五 一月限 六仙六四

●印綿 ベンゴール 一四留比 ブローチ 一八七留比 オムラー 一四四留比

各地市場

▲上海標金 止値 寄値 昨高 安 本 歩

▲上海日本向 第一回 第二回 第三回

▲上海倫敦向 一志 八片一六分五

▲上海紐育向 一志 八片四分一

▲大連鈔票 現物 近助 遠期 寄付 歩値

▲大連上海向 引値 高値 安値 出來高

▲大連煙台向

▲阪神日米爲替 第一回 第二回 第三回

▲阪神日英爲替 一志 一志

▲大阪株式 株 新 紡新 新 鐘 大

▲同 短期 新 新 新 東 鐘 大

▲大連株式

▲大阪三品 品 新 鈔 五 豆 錢

▲大阪棉花 納 當限 三月限 四月限 五月限 六月限 七月限 先限

▲大阪期米 當限 先限

▲仁川期米 當限 中限 先限

▲橫濱生糸 當限 先限

▲神戸豆粕 現物 當限 先限

▲大連特產 ●大豆 二月限 三月限 四月限 五月限

●豆粕 袋込 二月限 三月限 四月限 五月限 六月限

●豆油 現物 三月限 四月限 五月限 六月限

●高粱 現物 三月限 四月限 五月限 六月限 七月限

▲哈爾賓特產 ●大豆 現物 二月限 三月限 四月限 五月限 六月限

●小麥 三月限 四月限 五月限

▲カルカツタ麻袋 青麻 筋替 爲替

▲大連麻袋 現物 二月限 三月限 四月限 五月限 七月限 出來高

新京市況

大豆現物 休市
高粱 同
小豆 同
錢鈔
鈔票對金票
大洋對金票
國幣對金票
大洋對鈔票

建國の春のことごとに

小さい先生を前に朗らかな合唱
新政府で國歌練習
宇佐美顧問らも混つて

□……鄭國務總理が苦心の力作「滿洲國々歌」もいよ〳〵作曲が出來て此頃到るところ猛練習中だ、國務院總務廳から既に二十萬枚の印刷物が全國各地に發送されたが大元のこゝ國務院では來る三月一日の建國記念日までには是が非でも一般官吏に覺え込ませねばといふので二十五日から向ふ三日間、退廳時刻がすむと早速會議室に全員集合、老幼男女打揃つて猛烈に練習をつゞけてゐる

□……敎へ役は川田音樂敎諭ともに早くも覺え込んだ公學堂の兒童たちで小さい先生を前に「天地在了新滿洲」と曲は明るい、如何にも新興國家にふさはしいもの、滿洲人諸君は大喜びだが日系官吏はどうもうまくバツが合はないと見え宇佐美顧問、阪谷廳長、三宅法制局長なども聊か苦悶の有樣が見えると小さい先生からお叱言を食つては何遍となく遣り直しだこうなるとも何といつても

□……成績のよいのはタイピスト孃で斷然光つてゐるが日頃堅苦しい國務院も此の時ばかりは男女のコーラスが流れていとも朗かに、宇佐美顧問の顏も崩れてみんなが大はしやぎ、建國の春は誠にのどかなものである

の可愛い、答辭を述べさせる事に成つた、これが爲文敎部にてかねて人選中であつたが新京特別市第一小學校の兒童張在縣君が五時十分より滿洲語で放送しこの通譯には義に日本への少女使節に選ばれて日本では深いなじみのある公學校生徒揚雲さんが流暢な日本語で通譯放送する事に成り、ラヂオを通じて少年、少女の麗はしい交歡が行はれるのである

日滿國旗を各戶に掲げよ
來る建國記念日に

新京時局後援會では二十四日午後幹事會を開き非常時に際し滿日本人大會開催その他につき協議したが、更に三月一日の建國記念日には各學校で記念講演會を開くこと、民政部前の式典に參加すること、祝宴には日本人側の招待ある事だから必ず出席すること、日滿聯合旗行列に參加することその他を決定し、當日は全滿兩國旗をかゝげて祝意を表することゝしたが國旗掲揚は稍もすれば怠りがちになり易いから此際日本人側としても特に留意し各戶殘らず日滿兩國旗を掲揚すべく一般にも注意を喚起することになつた

建國周年記念當日
日滿少年、少女の交歡放送

三月一日の建國周年紀念日當日滿洲時間の午後五時から十分間東京放送局より日本兒童の慶祝の辭を滿洲國に向つて放送する事に就つて居るが滿洲からもこれに對し少年

反滿 南丁芳
吉田部隊に擊滅さる

【ハルビン二十五日發國通】德都附近にある南丁芳は表面歸順の意を表し居るも誠意なく却つて反滿態度を持つてゐるので克山警備隊より吉田部隊が自動車にて二十二日討伐に向ひ德都北方一里の地點にて之を擊滅せしめ南丁芳は戰死した

煙草密送の女給
ミカサの順子

市內三笠町二丁目カフエーミカサ女給順子事杉山芳子(二四)は去る一月卅一日岐阜市宮川淸宛へ郵送した子供服の中へ煙草スウイート二十本入四箱をつゝみ密送したが大連稅關で發見され罰金刑に處せらるる處今回は特に始末書のみでゆるされた

四平街の天然痘豫防

【四平街支局發】滿洲各地に天然痘蔓延の徵の爲め當市では一日から十九日まで二回種痘を滿鐵クラブで行つたが日滿人總計五千五百十一名で、日滿人とも在住人口の四分の一に達しない狀態で來る四月の定期種痘では半强制的に市民に種痘を行ひ此の恐るべき病禍を徹底的に豫防すると衞生係で語つてゐた

第一回全滿領事會議終る

去る二十日から開會されてゐた領事會議は昨日を以て豫期以上の收獲を收めて終了したが、今回の領事會議は滿洲事變勃發以來最初の會議であつて、そこに特別の意義を有するものであり、議題は滿洲出張の各方面綱羅し其の數約百件に及び、領事警察問題產業開發問題、日滿經濟統制問題日滿通商條約問題、治外法權撤廢問題、宣傳情報問題司法共助問題等當面の重要案件含まれ、各領事は各地の情報を持ち寄り腹藏なく意見の交換を行つた、又領事會議中、軍司令部、關東廳特務部等よりも出席し、率直なる意見の開陳あり、之が諸機關と連絡を密接にし從來とも之が諸機關とし關係は圓滑であつたが、今後は益々協力一致し國策遂行に邁進する事を誓つた、事變前とその後に於ては滿洲の事態は根本的に相違する所あり新事態に適應する爲、領事の事務も自ら變更を加へざるを得ないのであつた、今回の領事會議は特に重要であつたのは此の點である、或る方面に於ては在滿領事制度に對し兎角の批評をする者あるが此は全く認識不足の見解であつて今や在滿日本人增加し一般產業の發達に伴ひ領事の仕事も增加せざるを得ないのであつて、今後は更に軍、官憲とも密接な連絡をとりつつ國策遂行の大局に立脚し積極的に領事當然の職務に向つて最善の努力を盡すに意見一致した

兒童の映畫見物
新京でも禁止するか
近く父兄會を開き決定せん

大連小學校では兒童の映畫觀覽はたとへ父兄と同伴にせよこれを絕對禁止してゐる新京でも西廣場、室町の兩校では兒童の常盤館出入禁止について非常に頭を惱ましてゐる事實我ら學校當局のみが躍起となつた處で直接監督者である父兄が等閑に附して居る樣では勞多く効小き結果に終るので父兄と學校と提携して一體となり、これの防止に當る事となり、兩校では近く父兄會を開き對策につき協議する筈である、右につき早川室町小學校長は語る

活動寫眞の影響は恐ろしいもので未だ柔い頭に印象付けられた事は永久に拭ひ去る事は困難で、此の際何とか方法を講じ樣と思つてゐる、これは特に父兄諸氏に注意して戴けなければならない、自分の慾望の爲に子供を犧牲にする親が相當多い樣に思はれるが、それでは子供の敎育は零だ、子供の敎育の爲に自己の慾望の總てを犧牲にするだけの決心がなければ立派な人物を生育する事は不可能であると思う、子を持つ親は少くともこれだけの固い決心を持つてゐて戴き度いものである

鄭垂氏の告別式
二十六日執行

故鄭垂氏の追悼は滿洲航空會社並に各方面親友の發起に依り二十六日午後二時より、西四馬路西口般若寺內に構へた天棚內式場にて執行される、當日執政におかせられては故人の生前の功績殊に建國の偉業をめでられ又特に事使を會場に派せられ煌暖なる佛式を以て故人を追悼せらるとの厚遇を以て故人を追悼せられる由なるが煌暖なる儀式最も功ある者のみ特別の儀式にて其專使たる執政府官吏は最初に祭祀をけはれ直ちに政府に歸り旨を執政に報告するを要するは格式重きものにしてこれは執政が如何計り故人の偉業を追念せらるるの重きかを現はすものであるとの事である

新任挨拶
石本滿鐵總務部長來京

滿鐵總務部長石本憲氏は二十五日午前八時來京、ヤマトホテルに入つたが當日午前中は軍司令部、拓務省出張所長朝鮮總督府出張所長、憲兵司令官その他を訪問し午後は國務總理以下各部總長、特別市長を訪問、寬城子戰跡を視察した、二十六日は南嶺戰跡を訪ひ故鄭垂氏の葬儀に參列して午後四時三十分發奉天を經て歸連の豫定

四平街の野犬狩り

【四平街支局發】四平街衞生班では狂犬病豫防のため去る十四日より二十日まで一週間野犬狩を實施獵犬頭數九十八昨年度秋季野犬狩より約倍加した二十一日撲殺の上燒却した

表紙美術展

【四平街支局發】二十八日より當市滿鐵社員會主催で社員會機關紙「協和」表紙美術展覽會を滿鐵クラブホールに於て開催する

シベリアの天地に反革命熱の潜在
赤露の生地獄から脫出した青年黨員の實話 (中)

M、ダビドフは感激の瞳を輝かしながら語を續ける、のであるそれがソビエート政權の崩壞過程に於ける重大なる役割をもつ「農民の反抗」が「それが長期抵抗を意味する擾亂的反抗」であるところに深い意味がある、ソビエート政權下の事情が內外不出であり、發表されるものは五ケ年計畫の四ケ年完成を第二次五ケ年計畫の裏隔しや內幕である時純粹なソビエート敎育を受け眞目として動いて居る者の口から

この樣な事實が洩らされる事は果して何を意味するか、M、ダビドフ靑年は憤激の情を押へつゝ、スラブ人特有の粗野な表情を以て語を續ける

シベリアの地圖を御覽なさいバイカルを越へイルツクを經てしばらく行くと立派なシベリアでは稀れに見る整つた街カンスクにつぐでせうこの街は士官學校、中學校、女學校等の敎育機關もあるのだそれはいいとして、このカンスクから西南方約七八十哩の地點に高原、その廣汎な地域に散在するスラブ、ダツタン、キリアク等の混血した、皇帝と神と土地を三位一體として捧じながら狩獵を主として農業によつて生存してゐる精悍そのものの樣な八、九萬人の一團のある事を發見するでせう、その部落民達はソビエート政權によつてロマノフ王朝を奪はれ、神を否定され、しかも土地まで掠め取られんとして居る事に極度に憤激し、遂にソビエート政權を否定する反抗を表明し、官廳其の他を襲擊したのだ、その附近の部落民は斷乎としてトラクターによる大農、つまりコルホスを否認し、自分達が原野を汗と血で今日の如き美田となしたものを、そうだ自分達はその土地に對してキツスまでしたるのにそれを强制的にコルホス化しトラクターで耕し、家庭的な團欒をまで奪ひ去る事は實に堪へ難い事だ、家庭生活はさうだ、食糧供給所に數千人が列をなして配給されるのだが而も多くの順數を待たねばならぬのだ、狹い室に幾人もの家族が生活し、隣りの家族とは布をつるして境を作つたのみだ、しかもその中に幾人のゲペ、ウが居るか全く不明だもし誰れかが反政府的口吻を洩らさんか、彼れはもう「死刑」だ、ゲ、ペ、ウの力によつて維持され眞の自由は奪はれてゐるのだ、醜い闘態のトラクターが雨露にさらされて赤くなつてゐる幾百臺かを見た時、シベリアの農民が如何に根强く反抗し、その廻轉を絕對的に拒否してゐるかを想像出來やう、それがソビエートへの長期抵抗の現れだ、ゲペ、ウの勢力を以てしても狩獵用の武器を沒收し兎れてゐるのだ勝れた彼等の狩獵によつてる手腕は絕對性をもつてゐる廣汎な地域に悍悍な驅騁せしめて猛獸を射とめる姿を參へて御らんなさい、精銳な軍隊も抗し得ないでせう時に彼等の一團がソビエートの機關を襲擊してその關係者を殺害したのも亦あり得る事だ、彼等の十萬に近い一團が先づ起つて反政府的擾亂を試みたのだ聲なき聲に應じて呼應して起つた白系の同胞が必死である事はたしかだ、ソビエート政權が崩壞するならば、それはヨーロツパ、ロシアからでなく、シベリアからであらねばならぬと思つて居るカンスク西南方にあがつた烽火が擴大するならばどうなるか想像して下さい……元來シベリアの人達はツアール時代の流刑者と農奴だりし人々が、自由を欲してシベリアの豐饒な土地を耕して今日あらしめたのであり、最も自由に解放されだ人達であるのだ、それ等の人達が永久にソビエートに反抗しつゞけ、それが擴大し、一人の統制者か、大英雄が躍り出たならばシベリアの天地に新しい露族が高く掲げられるのも遠い事ではないだらうカンスク西南方にあがつた烽火――それがソヴエートの崩壞過程にどのやうな役割をもつかは知らぬ、只白系の同胞には武器がない資金か無いのだ、あるものは皇帝と神であるのだ、戰ふ意志だ

▲二十四日夜三人連のあまり色目の良くない善良な靑年が打揃つてカフエー行脚と出かけましたのでその義務としてさゝやきたいのであります▲先づ壁頭が吉野町のレストラヤマト、階下のホールはガランとしてまるで休業の樣だ、天井の紙は破れ下りその下でサービスする女給連又物凄いお方ばかりで、細いの、太いの、長いの、短いの色とり〴〵▲こゝの店、ほゞ好氣嫌で「天國に結ぶ戀」「影・慕いて」のレコードがしんみりしてゐました過去に悲しい思出があるらしいんです▲銀月は何時も大入滿員です、精養軒から轉勤して來た三羽烏のエロサービスめき〳〵と効を奏してゐます▲ボプラこゝにはデアリンの廣告の樣な女給さん揃で、歩く度にホールがメキ〳〵音を發します、あれだけの偉大なる體格の所有者を集めるには相當骨が折れた事と思うんです、然しエサが良いのかも知れません▲こゝ京子久留米の產でとてもたつしやな古今稀な口をもつてゐますが、聲が出ないのが氣にかゝるんです、或は?かも知れません許して▲同じく八重子新兵さんか大好です、新兵さんはお國の爲に命を捨てて八重子さんは新兵さんの爲に命を捨てる……てな風ぢやないんですか

天氣と氣象

二十六日天氣西の風晴、二十五日の氣溫最高十六度八、最低二十四度八

野菜相場

新京市場小賣相場表 二月廿四日「菜果之部」

種別	値段	種別	値段
白菜	[illegible]	蓮草 大連物	[illegible]
サツマ芋	[illegible]	里芋	[illegible]
山芋	[illegible]	赤芋 內地	[illegible]
ワクチ芋 內地	[illegible]	牛蒡	[illegible]
蓮根	[illegible]	白大根「大連」	[illegible]
丸大根	[illegible]	赤大根	[illegible]
玉葱	[illegible]	人參	[illegible]
生姜	[illegible]	ウド	[illegible]
ワサビ	[illegible]	內地葱	[illegible]
玉菜	[illegible]	カブラ 大 小	[illegible]
馬鈴薯	[illegible]	水菜	[illegible]
ユリ子	[illegible]	同	[illegible]
セリ內地	[illegible]	ミツ葉 大 小	[illegible]
春菊 大連	[illegible]	ワケギ 內地	[illegible]
林檎	[illegible]	胡瓜 內地	[illegible]
天津梨	[illegible]	內地梨	[illegible]
チブルー	四〇	ミカン	[illegible]
		西瓜	二〇

婦人と家庭

過失と幼兒の心理
世の親御さん達はどんな態度をとるか

……小……さい子供が間違つて人の顔を打つた場合など、打たれた人が痛さうな面持をしたり泣いたりすると「間違つてしたのだからお前が悪いのではない」……といくら云ひ聞かしても打つた子は泣き止まないことがあります

……斯……うした子供の心理を説明する二つの"白い問題"があります

(一)お父様の留守に机の上を綺麗に掃除しようと思つて、澤山インキをこぼし机を汚した子供があります

(二)矢張りお父様の留守にイタヅラ書をしてゐて机をインキで少し汚した子供があります

……此……の二人の子供の行爲のどちらが悪いかを兒童達に質問調査しますと、七歳、或は六歳位までの子供は、例外なしに前者を悪いとします、掃除をしようとした良い意味の動機などは全然認めず、インキで澤山よごしたと云ふ結果だけを考へるのです、小さい子供は結果論なのです

……イ……タヅラ書をしたのであつても机が少しよごした後者を良いとするのです、併し十歳位からは結果はどうであらうと、動機のいゝ方が罪が輕いと考へるやうになつてきます、つまり兩者の行爲を是認するやうな態度に出るのです

……自……分の意志のよい悪いなどは問題でなく、たとへ過失であつても損害が大きければ大きい程悪い――すなはち六七歳の幼兒の心理は兩親にとつては非常に厄介なものです、悪い氣持でしたのではないからと云ふ説明などは全く耳に入れないで、泣いたり喚いたりしますから、早く機嫌を直さすために泣き止めさすために、動機の説明なども閑却し勝ちです

……だ……が、善意でやつた事ならば結果が非常に悪くても悪意でやつたことよりもいゝのだ―といふ風に教へないといつまでたつても幼兒の結果論から拔けきれません、つまり正しい道徳觀を抱くことがなくなるわけです

折角召上るなら 胚芽米 見別け方を知つてから

〔一〕口に胚芽米と云ひますが、胚芽米にも色々あつて完全な胚芽米と云ふのは、市場に出てゐる程度のものには極少いのです。完全な胚芽米さいふのは、粒をとつてみると芽があつて色の黒いもの程宜しいのです、色が黒いといふのは、胚になる部分の外皮が殘つてゐる事で、芽とその外皮とが胚芽米としての値打をもつてゐるのです

〔併〕し今市場の胚芽米を百粒とつてみますと完全な胚芽米となつてゐるのは卅粒か四十粒にすぎません。あとは大部分白く搗かれて、芽はあつても大事な外皮はなくなつてゐるのです

何故胚芽米と名のつ〔い〕たものが白くさるかと云へば、白いのでなければ賣れないといふ事が原因となつてゐるのです、是は買ふ人が胚芽米に對して誤つた考へを持つてゐるからだと思ひます、つまり胚芽米は芽だけ殘されてゐれば完全な胚芽米と考へ込まれてゐるからです。そこで本當に良い胚芽米をお買ひにならうとするならば、百粒の中八十パーセント乃至九十パーセントの完全な胚芽米が入つてゐるものでなければならないのです

〔白〕い胚芽米と黒い胚芽米とを手の平に載せて比べて御覧になると、肉眼でも外皮の黄色く殘つてゐるのと、白くなつたのとは判別出來るのです、折角胚芽米を召し上らうとなさる方ならばさういふ完全に近いものを見別けてお求めになる事です

海の外から

心臓の運動が保護の鍵 米國イリノイス州立大學醫學部教授O・S・ウキリアムソン博士は心臓の規則的運動が保健上の鍵だと發表した、青壯年時代に一定の散歩を日課とし、安眠する方法を講じさえすれば宜いと極く簡單なものである

最短時間競爭 米國では目下加州紐育間を出來る丈け短縮して到達する方法の提唱並に實行者を募集中だが、一九三二年のロスコーターナー氏の十二時間三十三分と云ふ記録以下のものでなければならぬと

針無し時計 米國では針無しの時計の新型が出來た、之は何時何分と數字だけ出る仕掛けとなつてゐる

花江便り

日野武雄

松花江を紹介するに當て
吉林游擊第二支隊長

私は暇さへあれば馬に乗つて驅け廻る、すると無意識の内に種々の地方風俗風習產物と云つた樣なものを充分に知る事が出來、質朴な鮮民に親しく接近して彼等の暖い人情の風に觸れる事も出來るから此れは私に取つて樂しい日暇の一つである。私は今日も多忙の仕事の內僅な餘暇を得て兵舍に走つた、向風の中に熱砂の中にそして零下三十度の大地に常に敢然として建國の爲めたる勇者として匪賊討伐に何時も私と共に行動して吳れた心から親密なる友である軍馬私と同じ樣に僅な時間では有るが又此の大自然の懷に抱かれに行くことを此の上無く嬉しいものと思つてゐるに違いない、何故かと云へば此奴の嬉しい時に限つてする目を細めて長い顏を私に脊・擦り着けるからだ、今日は套子裏の方面に出掛けよう、と鼻梁を二つ三つ輕く叩いて私はひらりと跨つて兵舍を後に柏車を入れた、冬枯れとは云ひながら丘の上に立ち並んだ泥柳の梢が戰ぎもせず長い女の髮の樣な枝を垂してゐる、其れに群雀の止るのが急に枯葉を咲せた樣に思へる、解け殘りの雪が此處彼處に點々として肥沃のアルカリの勝つた土壤の上に氣の利いた調和を與へて居る、其の上に馬は丸い蹄の跡を殘して馳して行く、小高い丘を一つ越れば又一つと限り無い小丘の起伏はふと懷しい故郷の母親の乳房を思ひ起す、何處かの町で聞いたレコードに「丘を越へて行くよ」と云ふのが有つたのを思ひ浮べて可笑しくなつた、馬を止めて老少溝の小丘に立つた、見よ眼を東に向ければ松花江は吉林省より黑龍省に半弧を畫いて悠々たる「ギヤマン」の敷物を川幅一面に廣げ「クリスマスケーキ」を思はせる對岸に並び立つ二つの大橋頭堡、そして其の間に長く腕を延して居る象牙の樣な中東第二松花江の鐵橋……、何人と雖大自然の神秘、造化の神の靈妙に心を打たれ云ひ知れぬ禪味を覺えるであらう、川邊の耕地をひそり／＼歩いてゐる「ホルスティン」其れを追ふルシアの娘……此處に響く夢の繪卷を操り廣げて吳れる、岸邊の丘には沿線から哈爾濱から炎暑より逃れ出て來る人の避暑家屋が雜森の樣に箱庭の樣に見える、さて遙か陶賴昭の盆地に瞳を轉ずれば其處にはオンドルの煙がユラ／＼立ち登る滿洲民屋が將棋の駒の樣に立ち並ぶ、何んの牛として生けゐ者の不安が見出し得ようか其處には虛僞もなく虛榮も無く怒りもなく爭も無く安らかに王道樂土としての一大ユートピアを現出して居る、ふと幼な兒が私に向つて旗を振つて居るのが見えた、私は何んとも云へぬ感激に震へて目頭が熱くなつて來た、そして此の純な小兒に顏を上げて答へた、淸淨なる大氣を一息深く吸ひ込んで松花江站の丘に立つと吾が兵舍を見れば儼然として小搖ぎもせで北滿××から〇〇一帶に睨を利かせて治安の維持と地方自治の指導に其の使命を果して居る、然かもその附近から地平線の彼方まで廣い千里遮ぎるもの無く豐饒なる沃野が橫はる、間も無く赤陽は沈むであらう、此の土地此の水此の空そして吾等の兵舍と民屋私は止むに止まれず筆を取らずに居られなく無つた次第である、何故だと云へば北滿隨一の風光明媚な此の土地に私達のみが抱かれて務を盡して居ると云ふことは或る罪に似たものを感じたからである

同情週間寄附者

芳名	金額
清水敏夫	金十圓
撫本善吉	金五圓
軍司令部藤井	二圓五十錢
張燕卿	三百圓
趙宸	五十圓
頭道溝商務會	二十圓
周景昌	五圓
張惠卿	五圓
孫化南	五圓
源盛棧	二圓
志遠永	三圓
同友合	三圓
愼發祥	三圓
義巨棧	二圓
恒增利	三圓
益增長	二圓
天合慶	一圓
永衡通	二圓
萬源合	五圓
天興福工廠	二圓
積德泉	二圓
天興福第一粉廠	二圓
裕昌源製粉工廠	二圓
福順厚	二圓
巨昌棧	二圓
福合棧	二圓
洪發億	二圓
傳文選	二圓
大同粉棧	一元
通吉棧	二圓
東信長	二圓
新泰湧	二圓
裕成祥	二圓
和利和	二圓
寶巨源	二圓
洪發合	二圓
盒發棧	三圓
廣合源	一圓
成發成	一圓
問合茂	一圓
東永祥	五圓
公成興	一圓
寶太合	二圓
同興興	二圓
天盒隆	二圓
寶太昌	二圓
會合東	一圓
謙銃齊	二圓
集升號	二圓
慶半合	二圓
春發金	二圓
義外金	二圓
鎰元春	二圓
玉茗棧	三圓

原作尾崎紅葉　監督野村芳亭

金色夜叉

林長二郎・田中絹代　共演

八雲恵美子、若水絹子、川田芳子、飯田蝶子、鈴木歌子、松尾光子、江川宇禮雄、岩田祐吉、藤野秀夫

解說　新人　奥一郎　岡天卿

廿七日、廿八日兩日公開　廿八日は晝夜二回

見よ見よ空前の大トーキースト

市川右太エ門　大江美智子　共演

江戸へ歸つた退屈男

好番組　本年中の　滿洲國々歌　(開春?)

入場料　大人　80　學生　40　小人　20　(軍人?)

聯盟社提供　長春座

今週こそスペツシヤルシヨウ

開店御披露（理髪業）

清爽◎　輕快◎　雅稚◎

新京中央通二六（長春郵社前）

イヅミ軒

理髪部　電話三三三一番

春向半衿紐類　縫糸と小間物

豐富着荷

京染取次ぎを初めました御用命は御電話で

半衿　帶　縫糸　紐類　小間物

新京吉野町二

㋕商店

電話三〇九二番

營業案內

軍隊兵器手入材料揮發油、酒精、染料、膠日本ペイント塗料カーバイトシクラック兵器及工業用諸油工業用品、各種ウエス陸軍諸官衙御用達

田中商會新京支店

富士町三丁目十番地　電話長三四五八番

本店　旅順乃木町三丁目

支店　奉天平安通十一番地

滿洲語講習生募集

一、講習開始　三月二日

一、講習時間　午後一時より三時まで一班（教科書急就篇）　午後三時より五時まで一班（教科書簡易支那語會話篇）　午後六時半より八時半一班（教科書急就篇）

一、講師　北京人

一、講習科　一ヶ月金二圓

一、特長　初歩より懇切に教授す

昭和八年二月

拓殖大學經營新京講習所

場所　新京日出町六丁目一番地（富士町通り取引所東）

印刷機械及材料　各種印刷と製本　卸小賣

北原紙店

電話三三〇九

銘酒　月ヶ瀬

醸造元　森川新京支店

日本橋通二丁目　電話三八〇八番

リン的全滅一大福音藥

特製　責任製劑無効返金藥

りん病こしけ　別府淋藥

製劑本舖　岩里天然堂

北滿一手販賣　新京二條通り　西澤大藥房

電話二七一〇番

開店御披露

食道樂

吹雪

自慢の食器で開花の千代が

庖丁の切味と

サービスの眞劍さ

朝日通領事館下

電話三八四四番　ミワヨシ

洋服地

合物嶄新柄入荷

合服のお仕度を……

おからだにシツクリさあつて評判に合つて

吉野町二丁目

横田洋服店

電話一四八番

人麗人美

御料理　三福

―が内地から多數參りました

敷島西五馬路　電三八七番

鐵材・小野田セメント・建築用品

大信洋行新京支店

ペイント・關西ペンキ・ルベロイド・スレート・ブッフス

新京日本橋通七八　在庫 豐富　電話三七〇八・二五二三

幻黒船往來

作　寺島柾史　畫　布施長春

第三十回

美女誘かい（六）

『下郎待て！』

『……………』

若者は立とまつて振かへつた。頬かむりの手拭を、どこで失つてきたか月光に照し出されたその男の顔は、夕顔のやうに白く亂髪の下に、やゝくぼんだ美しい眼が輝いてゐる。

『狼藉いたすとためにならぬぞ。……この刀が眼に入らぬか』

『ふむ、笑浦の鐵面ではなかつたのか』

若者は、あきらかに冷笑をうかべた。

『なに！』

『だ。お主らに、まんまと邪魔されたわい』

若者は、いひ終るや否や、くるりときびずを返し、船の突端へ、再び飛鳥のやうにかけだした。

『おのれ恥知らず奴が……』

典膳は、猛然と背後を襲ふた。と、典膳につゞいて、若者を追ふ一團の水兵たちのうちで、とつぜん發砲したものがあつた。

あつ！

小鬢のあたりを彈丸がかすめたのだらう、若者は、ひよいと身をかしげたとおもふ途端、翻然と船首の突端から身をおどらし、月明の海へ水音高くおちていつた。

『やゝ……』

『笑浦でもない奴が、なんの恨みがあつておれをきらうとするのだ』

『恨みではない。そちの狼藉を見るに忍びず追ふて來たのだ』

『血迷ふな。おれに、なんの狼藉があらう？』

『默れ！フランス水兵たちが、このとほりいきり立つてゐるわ。われ等が隊長と用談中、ひそかに船中へ忍び込んだ怪しい奴、吟味のねうちは充分にある。すなほに縛につけ』

『いや、縛につきたいが、今はもう不利だ。榮園やお主や、あの藤太奴がをつては、おれの計畫も水の泡ぢや』

『なら、おれの一刀をうけるか』

『武器がないわ』

『貸さう？』

『いや、おれは、あくまでも逃げのびたい』

『なに！』

典膳が、一刀をさげたまゝ海中をのぞいたころは、もうそこには曲者の姿は消えうせてをつた。

×　×

蝦夷五月——。

箱館の對岸、當別の草野、その愛らしい丘は、春たけなはだつた。

榊の低木に、胸の赤い小鳥が囀いてゐる。

草の葉には、雲雀や、さまざまな昆虫の巣を營んでゐるのが感じられる。そして、このあたり一帯の草原には、北方の花の王女鈴蘭が、その可憐な花をかたむけ、高貴の香りを誇らかに[illegible]た。

春はまだ淺かつた。けれど、その柔肌に身をまかせると、草の甘さ花の香りが、煽情的に人のこゝろを浮立たせる。丘の中腹の草に坐つて、ざんらんたる海光をあびてゐると、つひ、うと／＼と睡るのだ。

もう、箱館山は樹も淺かつた。海は、あくまで明るく、いくつかの白帆が砂のやうにうかんでゐ